

マネージメント情報

※ アメリカ・カナダ研修報告 Vol.3

< 6/3…アルバータ大学 →サスカチュワン大学 >

1. カナダの酪農について



The Canadian Dairy Industry				
MSQ, July 31, 2004; Milk, 2004				
Provinces	% Farms	% Cows	% Milk ^a	Milk, kg/Cow ^b
Maritimes	5	6	4.3	
Quebec	48	38	45.8	~8,100
Ontario	32	34	31.5	~8,200
Manitoba	3	4	3.6	9,150
Saskatchewan	2	3	2.5	9,375
Alberta	5	8	6.6	9,504
B.C.	4	6	5.7	10,083

^a CDC (2004), ^b Canwest DHI, 2004

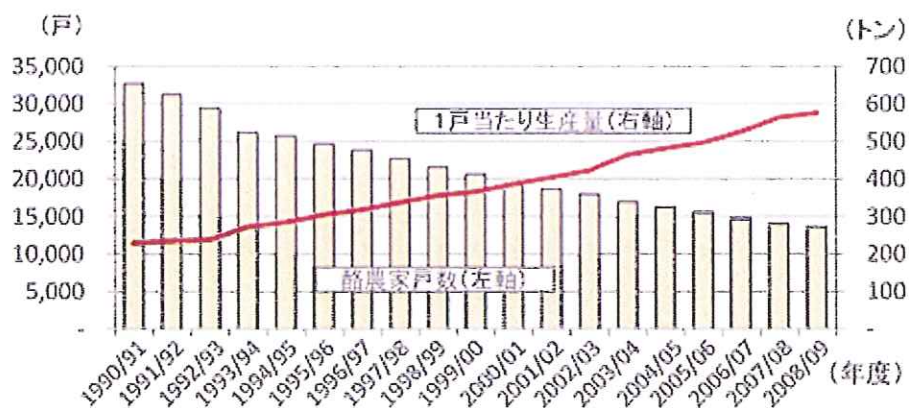
北海道に住んでいる私たちにとって、身近なカナダは冬季オリンピックのあった西部のバンクーバーであるとかアルバータ州であり、また北海道アルバータ酪農科学技術交流協会という組織が年一回のペースで「海外農業技術セミナー」を開催している関係でカナダ西部が酪農の中心だと思っていましたが、実際は全くその逆でカナダの酪農の中心が東部のケベック州とオンタリオ州であることが初めてわかりました。

今回はカナダの酪農についてクォータ制度も含めてご紹介したいと思います。

今回の研修でいただいたスライドと月報「畜産の情報」2010年10月HPから抜粋しました。

カナダ酪農制度の概要

酪農家戸数と1戸当たり平均生乳生産量



資料: CDC

2009年8月1日現在の酪農家戸数は、13,214戸と、前年度に比べ2.7%の減少となった。酪農家の戸数は、小規模層を中心として漸減傾向で推移しており、10年前（1999年）の約2万戸からは約4割減、35年前（1975年）の約8万戸と比べると6分の1以下に減少しています。

また、州別に見ると、ケベック州およびオンタリオ州の東部2州で81.2%を占めていて、さらに、ケベック州だけで49.1%と、カナダの半数近く酪農家が分布しています。

乳用牛飼養頭数は、2010年1月1日現在98万1千頭と、ほぼ前年並みとなっていますが、長期的には減少傾向にあり、この10年では、99年の115万7千頭から15.2%減少しています。

州別に見ると、ケベック州およびオンタリオ州の東部2州でカナダの69.8%を占めていますが、戸数シェアより小さいでしょう。これは、カナダの酪農家1戸当たり乳用牛飼養頭数が72頭であるのに対し、ケベック州は56頭と最も小さいためであり、ケベック州の場合、広大な土地の下、大規模な酪農経営が可能な西部の新興州と異なり、小規模な家族経営体がまだ残り、処理施設を自ら所有する経営が多く、施設の能力内で乳牛を飼養する傾向があると言われています。

また、兼業農家が多いことも小規模経営が存続している理由の一つであり、しかしながら、100頭以上飼養する生産者戸数が最も多いのも同州であり規模拡大も少なからず行われています。

(1) サプライ・マネジメント(生乳供給管理)

カナダの酪農政策は、3つの柱からなる。

第1は加工原料乳の価格支持

第2は生乳の供給管理

第3は関税割当制度による乳製品の輸入規制

すなわち、価格を支持するためには、輸入を含めた供給量の規制が条件となることから、カナダの酪農制度は、国内需要を前提とした生乳の供給管理制度となります。生乳供給管理の目的は、乳製品の国内需要および一定の計画的輸出を含めた加工原料乳の生産を確保することである。カナダは、このような加工原料乳の供給管理を1970年代初期に導入しました。制度導入の背景には、それ以前の50年代～60年代にかけて、需要、供給ともに不安定であり、生産者や加工業者により収入の格差も極めて大きかったという事情があり、市場の安定化のために生乳供給管理制度は導入されました。

飲用・加工を合わせた全体の生乳供給管理は、連邦政府と州政府の合意に基づく全国生乳出荷計画を通じて運営されており、その運営主体はカナダ生乳供給管理委員会（CMSMC）が担っています。CMSMCは、各州の生産者および州政府の代表者からなっており、消費者、乳業者および生乳生産者の全国団体の代表が、それぞれ投票権を持たないメンバーとして参加しています。

CMSMCは、毎年、加工原料乳の全国生産目標である市場出荷割当（MSQ）を設定する（日本の限度数量に相当）。MSQは、需要の変動に応じて修正できるよう、常にモニターされ、2カ月毎に調整される仕組みとなっています。

(2) 生乳供給管理制度の運用実態

生乳供給管理制度の運用は連邦政府と州政府により分担されています。州政府の独立性は高く、細かくは州毎にその仕組みが異なっている。よって、生乳の州内の取引については州政府が所管し、州間取引および国際貿易が連邦政府の所管事項となっていて、広大な国土を有するカナダにおいては、

基本的に飲用向け生乳の州域を越える輸送は困難であることから、結果的に、州政府が飲用乳の供給管理を、連邦政府が加工原料乳の供給管理を、それぞれ連携をとりながら所管する仕組みとなっています。このうち、飲用乳については、州政府により法的権限を与えられた州政府機関、生産者により運営されているミルク・マーケティング・ボード(MMB)またはその両者により運営され(以下「MMB 等」という。)、州によりその運営主体は異なり、加工原料乳については、連邦政府関係機関であるカナダ酪農委員会(CDC)により運営されている。しかしながら、CDC は、個々の農家の加工原料乳の出荷割当については、州政府に委託している。このため、州政府の役割は、実質的には、州内の飲用乳価格の決定と加工原料乳をも含めた生乳供給数量(クォータ)の管理になる。MMB 等は、個々の生産者の生乳供給数量を正確に管理するため、すべての生乳生産者に対してライセンスを発行し、その管理を行っています。また、全国生乳出荷計画に基づき、州の飲用乳クォータを設定し個々の生産者に対して割り当てるとともに、州に配分された加工原料乳の MSQ をさらに個々の生産者に対して割り当てています。さらに、MMB 等は、生産者から生産されたすべての生乳を一元的に購入し、それを個々の乳業メーカーに販売する一元集荷多元販売を行っています。

カナダの生乳供給管理制度の特徴の一つとして、個々の生産者間のクォータの売買等がある。同一州内においては、MMB 等が仲介機関となって、クォータの取引が自由に行われている。取引の方法は、株式の取引と同様で、公開市場においてクォータを売りたい生産者と買いたい生産者が、それぞれ希望数量と希望価格を伝え、両者がバランスする価格で売買が成立する仕組みとなっている。

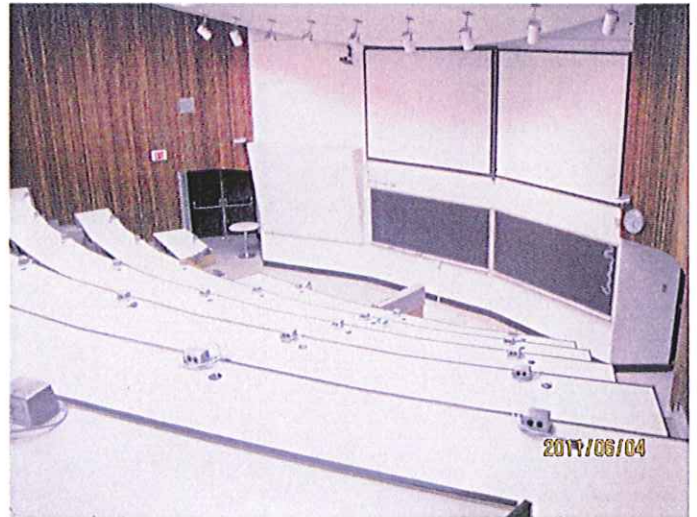
それでは、クォータは具体的にどれぐらいの生乳量になり、どれぐらいの価格になるのだろうか。1クォータとは、乳脂肪を1キログラム生産できる1日当たりの生乳生産量と定義されている。2008 年の生乳の平均乳脂肪率は 3.8%であるので、1日当たりの生乳生産量は、 $1 \text{キログラム} \div 0.038 = 26.3 \text{キログラム}$ 、年間では $26.3 \text{キログラム/日} \times 305 \text{日} = 8,022 \text{キログラム}$ となり、ほぼ搾乳牛1頭分の生乳生産量となる。つまり、1クォータは搾乳牛1頭を飼養する権利と言える。1クォータの価格は 2007/08 年度においては全国平均で 28,205 カナダドル(約 231 万円)となっている。カナダの酪農生産者の平均飼養頭数は 72 頭であるので、72 頭の乳用牛を飼養するために購入するクォータは $72 \times 28,205 = 2,030,760$ ドルとなり、1ドル $\div$ 82 円とすると約1億7千万円となる。つまり、72 頭の飼養規模の酪農を始めるためには1億7千万円分のクォータを購入しなければならない。これは、新規参入の大きな障壁となっている。しかし、逆に 72 頭を飼養している酪農家が離農のためクォータを売却すると1億7千万円を手にすることができることになる。退職金としては潤沢な額と言えよう。

うらやましい限りです。

(3) 乳製品の支持価格

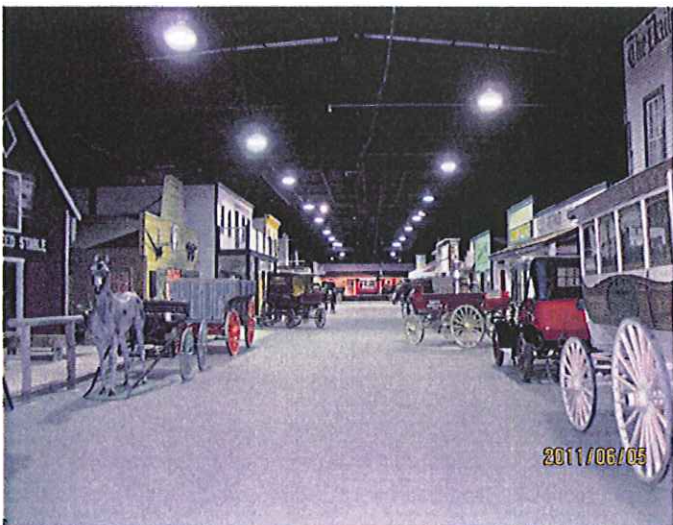
CDC は毎年 12 月中旬、生産者や加工業者等関係者による助言、CDC による生産費調査結果、市場条件、酪農をめぐる環境の変化および経済事情を考慮し、翌年2月1日から適用される乳製品の支持価格を設定している。支持価格は、物価等の変動があった場合には適宜見直しが行われることとなっており、最近では、2008 年に飼料穀物や燃料費の急騰を受け9月からの価格を見直した。乳製品の支持価格は、効率的な生乳生産者が生産した加工原料乳に、加工業者の推定マージン等を加えて、バターおよび脱脂粉乳について設定される。生産費調査の農家選定に当たっては、まずは各州における1戸当たり平均生乳生産量を求め、平均値の 60%以下の少量生産者およびコストの高い上位 30%の非効率的生産者を除外している。CDC の生産費調査に基づく 2008 年の生乳 100 キログラム当たりの費用は、68.47 ドル(5,615 円)となっている。

サスカチュワン大学の写真です



サスカチュワンにある歴史博物館

1900 年初頭に移民が始まりその頃の町並みが復元されていました。



復元された町並み



100 年前にはこんな John Deere があったんですね？



蒸気で動く三輪のトラクター



これも蒸気で動くフォード以前の車



コンバイン



蒸気 of 四輪トラクター



博物館の入り口の庭には10頭位のリス？が巣穴から顔を出していました。

-
- ・今年の夏は晴天に恵まれてますますでの天候ではなかったでしょうか？ 雨が降らずに新播の畑は悲鳴をあげていましたが、先週からちゃんと降ってくれて本当に良かったです。今年のデントコーンは楽しみです。
 - ・カナダの酪農は本当にうらやましい限りですね。EUのクォータ制度は廃止の方向にすすんでいるようなので、カナダのクォータの今後に注目です。